

当院整形外科が読売新聞に掲載されました！

2017年6月4日(日)

(第3種郵便物認可)

2017年(平成29年)6月4日(日曜日)

読

賣

病院の実力「腰痛」

医療機関別2016年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	①腰部脊管狭窄 症の手術 (人)	①のうち低侵襲 手術(人)		②のうち低侵襲 手術(人)	
		②のうちのヘルニア の手術(人)	②のうちのヘルニア 以外の手術(人)	②のうちヘルニア の手術(人)	②のうちヘルニア 以外の手術(人)
平和横浜脊椎髄病セ	385	43	212	67	
新横浜スパインク	353	0	7	0	
日本鋼管	225	69	189	189	
湘南藤沢徳洲会	217	11	16	16	
昭和大横浜市北部	189	112	16	14	
横浜労災	172	0	33	27	
東海大	156	17	36	36	
横浜市立みなと赤十字	152	152	30	30	
伊勢原協同	150	0	35	3	
横浜市大病院	121	10	18	18	
川崎幸	118	61	17	14	
厚木市立	108	0	14	0	
総合新川橋	105	105	3	2	
北星大	94	0	21	0	
市立川崎	91	0	31	7	
済生会横浜市南部	90	90	15	15	
済生会横浜市東部	84	0	11	11	
平塚共済	72	0	9	1	
横浜市大市民 総合医療セ※	71	4	3	3	
藤沢市民	60	0	6	0	
内田毅ク	51	51	11	11	
聖マリアンナ医大	48	0	27	6	
湘南鎌倉総合	31	31	34	34	
横須賀市立うわまち	20	0	5	5	
海老名総合	16	0	7	7	
横浜総合	14	0	15	0	
桜ヶ丘中央	2	-	6	-	

※整形外科の実績

「セ」はセンター、「ク」はクリニック。

「-」は無回答または不明。

病院の  
実力

神奈川編 ◆112

腰痛

今回の病院の実力は、腰痛をテーマとした。「椎間板ヘルニア」は、腰の骨と骨の間でクッション役として働いている椎間板が飛び出し、神経を圧迫して腰痛が痛む病気だ。「脊柱管狭窄

症」は、加齢によって椎骨をつなぐ靭帯が厚くなったり、椎骨がずれたりして、神経が通る脊柱管が狭くなって起こる。 一覧表には、これらの代表的な腰の病気について、2016年に手術を受けた患者数を載せた。 また、手術のうち、体の負担が少ない「低侵襲手術」を受けた患者数も明示した。低侵襲手術は、内視鏡や顕微鏡を使うことで、皮膚を切り開

く傷口が通常よりも小さい2〜3センチで済む手術だ。術後の痛みが軽かったり、術後の回復が早いことで入院期間が短くなったなどの長所がある。 ただ低侵襲手術は、手術の難易度は高くなる。日本整形外科学会は、内視鏡を使った脊椎手術については技術認定医を公表しており、ホームページで確認できる。 腰痛治療で注意したいのは、必ずしも手術が最良の

内視鏡手術HPに認定医

治療とは限らない点だ。椎間板ヘルニアは、手術をし

なくても1年後には9割以上が回復するとの研究報告もある。また、脊柱管狭窄症の手術では、痛みは改善しても、しびれが残る場合もある。手術が必要かどうかは医師によく相談する必要がある。

当院整形外科では、患者様への負担を考え、椎間板ヘルニアは内服での治療をすすめております。

また、内視鏡や顕微鏡などを使用した最新の低侵襲手術手技(MIS)を行い、からだにやさしい手術法を選択しています。

※著作権は、読売新聞社にあります

2017年6月